

第五回

井上靖記念文化賞

第五回 井上靖記念文化賞

くまかわ てつや
熊川 哲也

バレエダンサー Kバレエカンパニー芸術監督

●贈賞理由

日本人初のローザンヌ国際バレエコンクール金賞受賞後のプリンシパルとしての国際的な華々しい活躍、Kバレエカンパニーの設立など、精力的な公演活動や後進の指導を続けている業績に対して



【略歴】

- 1972年 北海道旭川市生まれ
 - 1987年 英国ロイヤル・バレエ学校に入学
 - 1989年 ローザンヌ国際バレエ・コンクールで日本人初の金賞を受賞
ヨーロピアン・ヤング・ダンサーズ・オブ・ザ・イヤー・
コンクールで金賞を受賞
 - 1993年 英国ロイヤル・バレエ団でプリンシパルに就任
 - 1999年 Kバレエカンパニーを創立
 - 2001年 第二十七回橘秋子賞特別賞を受賞
 - 2003年 Kバレエスクールを設立
 - 2004年 第三回朝日舞台芸術賞を受賞
 - 2005年 第五十五回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞（舞踊部門）
 - 2006年 Kバレエカンパニーが第五回朝日舞台芸術賞を受賞
 - 2012年 Bunkamuraオーチャードホール芸術監督に就任
Kバレエユース設立
 - 2013年 紫綬褒章を受章
 - 2015年 第二十四回モンブラン国際文化賞を受賞
 - 2018年 第五十九回毎日芸術賞特別賞を受賞
- （主な活動歴）
- 英国ロイヤル・バレエ団のプリンシパルとして活躍。Kバレエカンパニー創立後は、自身のプロダクション『ジゼル』『眠れる森の美女』『白鳥の湖』『コッペリア』『ドン・キホーテ』『くるみ割り人形』『海賊』『ロミオとジュリエット』『シンデレラ』『ラ・バヤデーラ』ほかオリジナル作品『クレオパトラ』『マダム・バタフライ』世界初演など多数上演

熊川 哲也

私は旭川に生まれ、単身英国に渡るまでの十五年間を北海道で過ごしました。今では故郷を離れてからの歳月のほうが遥かに長くなりましたが、その間ただひたすらに道を切り開き、バレエ芸術の世界を疾走してきた私にとって、折に触れて立ち戻る故郷は常に心の拠り所であり、自分をリセットすることのできる唯一の場所であり、また芸術活動の源であり続けています。

歳を重ねるごとに実感するのは、私の感性は北海道の大自然によって培われ、この美しい地に生まれ育ったからこそ今の自分があるということです。四季折々に様々な表情を見せる自然に対して抱いてきた感動や畏れ……そうした心の起伏が私という人間を形作り、今もこの地に立つたびインスピレーションを呼び覚ましてくれるのです。

バレエという芸術には、まさしく自然界の美しい景色と同じ感動を人々にもたらす力があります。バレエは言葉のない世界だからこそ、ただ純粹に目の前の美しいものを美しいと感じ、心揺さぶられる素晴らしいひと時がそこにあるのです。人間が作り上げる形式美には、大自然に勝るとも劣らない美しさがある——そんな矜持を胸に、この先もバレエ芸術に我が身を捧げ、人々に感動を提供し続けていくこそが私の使命であると考えています。

最後に、私の原点でもあるこの旭川において、日本が誇る偉大な文学者である井上靖先生にゆかりの榮譽ある賞を賜りましたこと、光榮に思うと共に心より感謝申し上げます。

第五回 井上靖記念文化賞 特別賞

ふじわら よしお

藤原 良雄

株式会社藤原書店 代表取締役社長

● 贈賞理由

藤原書店を率い、フェルナン・ブローデルの大著『地中海』をはじめ、フランス現代思想の翻訳出版を精力的に行うほか、『石牟礼道子全集・不知火』、宇梶静江の自伝『大地よ!』等を出版し多大な反響を呼ぶ



【略 歴】

- 1949年 大阪府出身
- 1973年 新評論に入社
- 1980年 新評論の編集部長に就任
- 1989年 藤原書店を設立
- 1992年 第一回青い麦編集者賞を受賞
- 1995年 藤原書店から出版された『地中海』が日本翻訳出版文化賞を受賞
- 1997年 フランス芸術文化勲章（シュヴァリエ章）を受章
- 2007年 藤原書店から出版された『決定版』正伝 後藤新平』が毎日出版文化賞（企画部門）を受賞
- 2018年 仏アカデミー・フランセーズよりフランス語フランス文学顕揚賞を受賞

（主な活動歴）

ピエール・ブルデュー『ディスタンクシオン』（全二巻）、フェルナン・ブローデル『地中海』（全五巻）、『鶴見和子曼荼羅』（全九巻）、『決定版』正伝 後藤新平』（全八巻・別巻一）、『石牟礼道子全集・不知火』（全十七巻・別巻一）、宇梶静江『大地よ!』——アイヌの母神、宇梶静江自伝』などの大著出版のほか、学芸総合誌・季刊『環——歴史・環境・文明』（全六十一号）を刊行

藤原 良雄

この栄えある井上靖記念文化賞の特別賞の栄誉を戴き、光栄であると共に青天の霹靂のように感じております。

出版界に身を置いて明後年で半世紀経ちます。この半世紀、社会は、世界の変わりようは何とも言い難く、現象面の変貌は激しいものでありました。特に、印刷業界における技術革新。活版時代から電算写植へ、さらにコンピュータの導入で、一気に印刷業界の職人さんの手仕事は、わずか十数年で一掃されてしまうという事態に。この三十年のコンピュータの導入で、本作りや書店の仕事に到るまで、出版業界全体が変わることを余儀なくされた。一人一人が知恵を絞っていい本を作り、読者に展げていく姿を見ることはなくなりました。

拙は、シ歴史を問い直すグ、シすべての常識を問うグをモットーに、藤原書店を創業してまいりました。一九九〇年春、ブルデューの『ディスタクシオン』やブローデルの『地中海』をはじめ、読者が待望していた大著を紹介しました。その後も、新しい切り口で独自の本作り、それから、鶴見和子や石牟礼道子の全集、「後藤新平の全仕事」など、他社が手がけないものをまとめ上げる仕事をして参りました。

出版以外にも、関連企画の数多くのシンポジウムや、「野間宏の会」や「後藤新平の会」、「山百合忌」、「後藤新平賞」、「河上肇賞」等を持ち上げ、毎年、各々の人物・仕事の顕彰などをやって参りました。

二十一世紀の多難極める時代。今こそ、出版、言論界の重要性を再認識し、今後ますます一点一点に磨きかけた出版を行なって参りたいと思います。

ありがとうございます。

芸術を生きる熊川哲也さんへ

一九九八年四月十一日、北海道新聞夕刊の記事。

「マイヤ・プリセツカヤと熊川哲也。今なお踊り続ける今世紀最高の舞姫と、北海道が生んだバレエ界の風雲児。世界を魅了し続ける二人が、札幌で踊った」(中略あり)

わたくしは、マイヤ・プリセツカヤの叔母にあたるポリシヨイバレエの卓越した指導者、スラミフ・メッセレル女史に、チャイコフスキー記念東京バレエ学校で直接バレエの基本を教えていただきました。

技術、考え方、心構え。その頃のわたくしは、ひたすらバレリーナを目指していました。その後、女優の道に進みましたが、バレエの精神性は、今でもわたくしの心を支えてくれています。

「鋼のように強く、鞭のようにしなやかに」

メッセレル先生の美しい言葉は、日本の誇るバレエダンサー熊川哲也氏にひとときわふさわしい。高い技術と深い思慮。彼のバレエ世界、藝術人生は、極限への挑戦です。英国ロイヤルバレエ団プリンシパルとして、世界で活躍し、現在はKバレエカンパニーを主催、芸術監督としても多くの高い評価を得て、実績を重ねています。

尊敬する井上靖先生は、克己くつぎという意思の力を大事にされていたとお聞きしています。熊川哲也氏は、バレエという崇高な藝術を意思の力で表現しています。お二方は旭川で、その生を受けました。旭川の方のお話では、深い雪の季節が過ぎると、一斉に咲くツツジが、春の到来を告げるそうです。ツツジは、日本文化を象徴する花です。

井上靖記念文化賞を熊川哲也氏が受賞されます事、選考委員の一人として、大変嬉しく思います。

賞を明るく照らし出す

岩波茂雄が岩波書店を設立したのは一九一三年、今から百九年前のことである。彼の出版活動が、日本の近代化、啓蒙の精神の涵養に如何に多大の貢献を成したか、誰知らぬ者はいない。我国を代表する大出版人、岩波茂雄。しかし、彼は、出版事業・産業の勃興期、事業の展開に最も有利な状況からの出発だった。

翻って、今ほど出版事業が困難な中に置かれたことはかつてない。最早、出版人という存在は風前の灯である。

しかし、藤原良雄氏がいる。藤原氏は、一九八九年に藤原書店を設立以来、二十世紀から二十一世紀、昏迷し漂流する日本の現在を照らし、過去と未来への洞察を促す灯台の役割を担って、獅子奮迅の出版活動を行って来た。

フェルナン・ブローデルの大著『地中海』（全五巻・日本翻訳出版文化賞）をはじめとして、J・ミシュレ、アラン・コルバンなどフランスの歴史、思想書、『石牟礼道子全集・不知火』（全十七巻・別巻一）、『岡田英弘著作集』（全八巻）、『金時鐘コレクション』（全十二巻）、宇梶静江『大地よ！——アイヌの母神、宇梶静江自伝』、『森繁久彌コレクション』（全五巻）。また『中村桂子コレクション いのち愛づる生命誌』（全八巻）を中心とする現代の科学・医学への果敢なアプローチ、ウイルスや新型コロナ関連の啓蒙書など挙げていけばきりがない、濃密で、多彩極まりない、世界への洞察にみちた著作を世に問い続けている。

小出版社にして総合出版社、という奇蹟的な存在としての藤原書店を率いる藤原良雄氏への今回の授賞は、むしろこの賞の意義を明るく照らし出してくれるものだと思う。

井上靖記念文化賞選考委員会

令和三年七月十日

東京ドームホテル(東京都文京区)

選考委員

川村

湊

文芸評論家・法政大学名誉教授

栗原

小巻

女優・日本中国文化交流協会副会長

古家

昌伸

北海道新聞社編集局文化部長(当時)

酒井

忠康

美術評論家・世田谷美術館館長

辻原

登

作家・県立神奈川近代文学館館長

(五十音順・敬称略)

